

パネルディスカッション1

「－治療適応；内科・外科の立場から－逆流性食道炎、食道裂孔ヘルニア」

司会 春日井 邦夫（愛知医科大学消化管内科）

小澤 壯治（東海大学医学部・消化器外科）

逆流性食道炎治療の第一選択薬はPPIやP-CABであることは高いエビデンスレベルで示されている。しかし、薬物療法では食道裂孔ヘルニアや下部食道括約筋弛緩などの解剖学的問題を改善したり、物理的な胃内容逆流を防ぐことは出来ない。そのため、内科治療抵抗性の場合には、インピーダンス検査や内圧検査などの食道機能検査を行い、その病態を解析し治療方針を策定することが重要である。

本セッションでは、逆流性食道炎と食道裂孔ヘルニアに対する治療適応について、内科および外科の立場から現状と課題について検討したい。